豆州天城山産出硫黄礦調査ノ報告

968

114
A 4057
1

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

豆州天城山産出硫黄礦調査ノ報告

天城山硫黄礦産出ノ最モ著シキ地ハ三ヶ所ナリト雖ドモ其礦量ハ少シトス而テ其礦量ト成分トヲ擧示スルヿ左ノ如シ

硫黄ヶ窪産出ノ礦層

第一

長サ　凡ソ三拾尺　高サ　凡ソ六拾尺

幅　凡ソ二拾四尺　礦量　凡ソ千貳百噸

該硫黄礦平均ノ成分左ノ如シ

硫黄分　百分中　三二、三五

水分	一、二三
硅石物	六六、四二
合計	一〇〇、〇〇

該礦石ノ質ハ堅緻ニシテ稍黄色ヲ帶ヒタル黝色ナリ故ニ之ヲ採掘スルニ費用ヲ要スル丁稍多カルヘシ

又同層中溪水ニ沿ヒタル地ノ礦石ヲ取リ之ヲ試驗セシニ其含有セル硫黄分ハ殊ニ少量ニシテ其礦質ノ堅硬ナル丁石ノ如シ其成分ヲ擧示スル丁左ノ如シ

	百分中
硫黄分	四、八二
水分	四、九三
硅石物	九〇、九五
合計	一〇〇、〇〇

該礦石ハ硫黄分ヲ含メル丁僅少ナルヲ以テ硫黄ヲ製練センニハ其益アルヲ見ス

第二

長サ　凡ソ三拾尺　高サ　凡ソ四拾八尺
幅　凡ソ拾八尺　礦量　凡ソ七拾貳噸

該礦石ハ第一ニ比スレハ硫黄分ヲ含メル丁稍

多量ナリ其質堅緻ニシテ黄鼠色ヲ帯フ其平均成分ヲ擧示スルヿ左ノ如シ

	百分中
硫黄分	四二、六五
水分	一、一四
硅石物	五六、二一
合計	一〇〇、〇〇

又同層中最下ニ於テ採取セシ所ノ礦石ヲ分析セシニ左ノ結果ヲ得タリ

	百分中
硫黄分	五、六二
水分	二、一六
硅石	九二、二二
合計	一〇〇、〇〇

該礦石ハ層中ニ於テ最モ少ナリトス

以表ニ就テ之ヲ觀ルモ其硫黄製練ニ適セサルヲ知ルヘシ

臭澤産出ノ礦

該層ハ臭澤ノ谷底ニアリテ其上ハ絶ヘス渓水通流スルヿ而テ其面積凡ソ百八十坪ニシテ其厚薄ハ未タ調査セスト雖モ蓋シ深カラサルヘシ按スルニ該層ハ硫黄礦ノ谷底ヲ燃流シ其冷寒ス

ルニ臨テ生セシ者ナラン

該層ノ礦石ハ極メテ堅硬ニシテ其色ハ薄茶鼠ナリ而テ礦中ニ於テ硫黄結晶ノ小粒ナル者ヲ含有ス其平均成分ヲ擧ルト左ノ如シ

	百分中
硫黄分	二、一三
水分	五、一〇
硅石物	九二、七七
合計	一〇〇、〇〇

該礦石ハ硫黄製練ニ適セサル者ト雖モ其採掘並ニ其碎擣ホニ於テ賃銀低廉ナル人夫ヲ使役スルトキハ之ヲ肥料ニ用ルモ猶ホ可ナルカ如シ

古實驗ニ由テ之ヲ考フレハ唯硫黄ケ窪産ノ礦石ノミ硫黄製練ニ供スヘキ者ノ如シ然レトモ其量少クシテ第一第二両層ノ礦石ヲ合セテ凡ソ千三百頓ナリ該礦石中平均硫黄分百分中凡ソ三十四ナルヲ以テ其含有純硫黄ノ量僅カニ四百三十二頓即チ拾壱万六千六百四拾貫目ナリ故ニ一日十頓内外ノ硫黄ヲ製出スルニ當テ其製練器具ヲ得レカ為メ資本ヲ投スルモ礦石ノ少量ナルヲ以テ數十日ニシテ事業ヲ中止セサ

ルヲ得ス故ニ該事業ハ有益ノ者トナスヿ能ス
硫黄ケ窪ノ外一層産出ノ硫黄礦ハ既ニ前表ヲ
示セルカ如ク硫黄製練ニ適セサルハ論ナシ又
他ノ目的ニ於テ其適用ヲ考求スルモ未タ其望
アルヲ見ス然レトモ若シ低廉ナル賃銀ヲ以テ之
ヲ採掘シ以テ肥料トナストキハ稍々可ナルカ如
シ

明治十九年九月

吉田彦六郎

豆州天城山産出硫黄製練比較概筭

114
A 4057
2

豆州天城山産出硫黄製練比較概算

左ニ擧クル概算ハ二十四時ニ於テ純硫黄十噸即チ二百七十貫ヲ製練スル者ニ係ル

一硫黄礦石中ノ硫黄分ハ平均百分中三十四ナリ其中實際製出シ得ル者ハ二十五ナリトス

一製練所ハ二墨(フタヅミ)ニ於テ築造シ其通路ハ之ヲ修拓シ荷物ヲ山上ヨリ運降スルニ車ヲ用ヒ之ヲ昇スヽ片ハ牛馬ノ力ヲ用ルニ止ルモノトス

該修拓費ハ預算中ニ擧ケス

一金壱万三千八百四拾円　資本

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

内譯

金壹万円也　鉄製レトルト十六個練瓦建築花ニ其運送費

金千円也　製練所木造家屋長サ百五十尺幅百三十尺高サ四十二尺

金千円也　製練硫黄鑄造所家屋長サ凡ソ百五十尺幅百尺高サ二十尺花ニ溜水桶等

金四百円也　事務所建築造作一切

金千円也　木造倉庫四棟建築但シ硫黄花食物等ヲ貯フルニ供ス

金四百円也　荷車硫黄摸鋤鶴嘴鉄製スペード

金四拾円也　蒲黄凡ソ五百枚

今純硫黄十噸即チ二十七百貫目凡ソ十ヲ製出センニハ鑄鉄製レトルト十六個ヲ要スヘシ其容量各〻礦石百貫目ヲ受クルモノトス然レトモ實際ハ礦石五十六貫七百目ヲ其中ニ容レ二時間ニシテ純硫黄十四貫百八十目ヲ製出シ得ルモ

ノトス則チ二十四時ニシテレトルト十六個ヨリ得ル所ノ純硫黄ハ二千七百二十貫目餘ナリトス

金三拾六円四拾錢

純硫黄二千七百貫目ヲ得ヘキ礦石一万〇八百八十八貫目ヲ採掘スルニ當リ人夫百八十二人ニ給スル賃銀但一人ニ付一日二十錢ニシテ礦石六十貫目ヲ採掘ス

金二拾四円貳拾錢

礦石一万〇八百八十八貫目ヲ産出地ヨリ製練所ニ運搬スル百二十一人ノ賃銀但一人ニ付一日金二十錢ニシテ礦石九十貫目ヲ運搬ス

金九円也

製練硫黄二百七十貫目ヲ製練所ヨリ海辺ニ運搬スル四十五人ノ賃銀但シ一人ニ付一日二十錢ニシテ六十貫目ヲ運搬ス

金六円六拾錢也

薪料

薪六尺立方長サ二尺ヲ得ンニハ杣夫三人ヲ要ス

賃銀一人二十戔ニシテ六十錢ナリ

爐一個ニ於テ二時間ニシテ薪四尺立方ヲ燒爐ス摸鋼ニ用ル爐ハ一個ニ於テ二時間ニシテ薪半尺立方ヲ要ス今之ヲ合シテ四半尺立方トスルトキハ二十四時間ニシテ五百四十尺立方トナル其價五円四十錢ナリ

吹薪ヲ製練所ニ運搬セシニハ凡ソ牛五頭ヲ要スヘシ一頭二十錢ニシテ壱円二十五錢トナル

吹両項ヲ合セテ六円六拾五錢ナリ

焚火夫硫黄ヲレトルドニ入レ其滓渣ヲ除去スル人夫三十名ニ給スル賃銀但シ一人ニ付一日三拾錢ニシテ十五人宛晝夜交代　金九円也

硫黄入鋼費　金五円也

レトルト其ニ竈修繕費　金六円也

金貳円也

但シレトルトノ代價凡ソ三十六百円ニシテ凡ソ二年間ノ使用ニ堪ユヘキヲ以テ六円ニシテ之ヲ修繕シ得ヘシ

金三円七拾九錢也

鶴嘴スペード蒲簀等ノ修繕費

資本壱万三千八百四十円ニ對スル一日ノ利子但シ壱割ナリ

金壱円也

支配人壱名一日ノ給料但シ月給三十円

副支配人壱名一日ノ給料但シ月給二十円

金六拾七錢也

會計方壱名一日ノ給料但シ月給十五円

金五拾錢也

雜務掛四名一日ノ給料但シ一人ニ付月給十円

金壱円三拾三錢也

大工壱名一日ノ給料但シ月給十円

金三拾三錢也

鍛冶二名一日ノ給料但シ一人ニ付月給十円

金六拾六錢也

金壹円也　工夫長三名一日ノ給料但シ一名ニ付月給九ツ十円

金五円也　諸雜費

合計金百拾壹円九拾三錢

右ノ概算ニ由レハ純硫黄一噸ヲ製出セシニハ凡ソ金拾壹円拾九錢ヲ要ス

明治十九年九月　吉田彦六郎